

会 議 録

1 会議名

第1回上越市6次産業化推進会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 会長、副会長の選任について（公開）
- (2) 上越市6次産業化推進戦略骨子(案)について（公開）

3 開催日時

令和5年2月7日（火）午後6時から

4 開催場所

上越文化会館4階 中会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：松野 千恵、太田 和枝、笠鳥 健一（代理出席 植村 孝弘）、齊京 貴子、丸山 薫、今井 進太郎、藤田 悟、岡田 政彦、空 周一
- ・事務局：農村振興課 佐藤課長、廣田副課長、宮腰係長、小平主任

8 発言の内容

(1) 会長、副会長の選任について

委員から事務局案を求める声があり、事務局から、会長に上越市農林水産部長の空周一委員、副会長に新潟県上越地域振興局農林振興部副部長の藤田悟委員を推薦し、出席委員全員の賛成により、事務局案のとおり、会長及び副会長が決定した。

(2) 上越市6次産業化推進戦略骨子(案)について

事務局から資料1、2、3に基づいて説明を行った後、会長が各委員に対し、6次産業化への思いを踏まえた発言を求めた。

(松野委員)：平成30年度に国の六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受けた。この認定を受けるにあたり、新潟県農山漁村発イノベーション

ンサポートセンターで地域プランナーの派遣を申請し、事業計画を見てもらった。

地域プランナーの派遣をお願いするきっかけとなったのは、以前から生産している「かに米」の販路を拡大していくためである。現在も新潟県農山漁村発イノベーションサポートセンターからも支援を受けながら、毎年少しずつ販路開拓に努めているところであるが、事務手続上、作成する書類が多く、農家1人だけでは、ハードルが高いと感じている。書類作成にあたり、上越市や上越地域振興局の方から、協力をお願いして、進めることが大事だと思う。

(太田委員)：私自身、最初は何か6次産業化に取り組みたいという相談で地域プランナーを派遣してもらったので、大変利用しやすかった。

しかし、この2年前ぐらいから、地域プランナーの派遣に当たり、事前に申請していないと地域プランナーの派遣をしてもらえない。6次産業化に取り組みたいと思っている農業者は、このような制度を分からない方が多いため、重点支援対象者でなければ、プランナーの派遣を受けることができない制度は改善する必要があると思う。

(藤田委員)：太田委員のご意見に対し、地域プランナーの窓口である県の立場から申し上げると、この制度は、国の制度に基づき、支援を行っている。6次産業化について、地域プランナーに聞きたいと思うときに、すぐ支援が受けられるのは一番良いが、地域プランナーの派遣を行うに当たり、相談したい事業者の経営状況がどうなのか、何に取り組んで、今後どのような取組を考えているかといった基礎的な内容や経営状況を確認した上で、書類を作成し、相談を行うという流れが理想的である。どのような状況でも派遣が受けられるということも大事であるが、申請者の基礎的な部分をしっかりと把握したうえで派遣を行うことも必要であると思うので、ご理解をいただきたい。

(植村委員)：直売所自体はこのコロナ禍で初年度は巣ごもり需要で売上は伸びたが、しばらくすると、売上は落ちてきた。今年度については、少し持ち直してきている。6次産業化の点では、加工部門、レストラン等コロナ禍で大きな

影響があり、今年度から運営の見直しをしている。また、1次加工の取組みで、タケノコの瓶詰めに活用できる加工室の貸出しを行っている。総菜については、地域の料理人をお願いして地場野菜を使用した商品があるらん畑で販売している。6次産業化は、設備投資や資金繰りといった面でハードルは高いと思う。その中で、企業とのマッチングの説明があったが、上越市には食品を扱う業者が多くいる中でうまく連携ができればよいと思う。

(齊京委員)：大根を出荷している農業者がおり、私が大根を加工して商品化している。JAえちご上越の職員と生産者で今後の生産体制について話し合ったが、最終的には生産者で加工を含めた6次産業化に取り組まず、分業型で生産者は大根を作り、当法人で加工し、販売することにした。販売するにあたり、どうやって販売先を確保していくかが大変である。昨年は大根を仕入れすぎてしまい、加工品の数がかかなり多くなった。販売できるか不安であったが、最終的にはなんとか全部売ることができた。

このような経験から、6次産業化というが、加工するにも設備投資が必要となり、補助金を交付してもらえらるとしてもなかなか生産者だけで行うことは大変だと思うので、分業して取り組むことも視野に入れる必要があると同時に、販売先をしっかりと確保していくことが必要である。

(丸山委員)：新型コロナウイルス感染症拡大前に農業従事者の支援拡充に向けて、アンケートを取ったところ、6次産業化に向けて取り組む事業者の回答では、高付加価値化の製品開発、売れる商品づくり地域のブランド力を高める商品を開発していきたいといったものがあった。他に、生産から販売までの一貫的経営の合理化、効率化を課題にしていると回答した事業者が多かった。また、6次産業化での設備投資の資金返済をしながら、黒字化を目指していくことが大変であると回答があった。

質問であるが、上越市で支援施策をそろえている中で、農業従事者や、6次産業化を目指す方々が支援を受けるためにどこで受けられるのか、手続きはどうしたらよいかということがきちんと周知されているか聞きたい。他に、資料2の9ページに成果目標を掲げているが、農商工連携の取組数に

ついて、私自身業務で農業者や他の業種の方とビジネスマッチングを図っているが、農商工連携については、かなりニーズが高く、成約数もいくつかある。この中で目標数4件とあるがもっと取組数を増やすことができるのではないかと。

(事務局)：市の支援施策の周知については、市内には認定農業者、担い手農業者と呼ばれる方々は約950経営体がいるが、これらの方々と新規で就農されている方々、更にはこれまでの間に市の事業を活用された方々に対して4月に支援事業の案内文書を送ったほか、6月には地域ごとに事業説明会を開催し事業の説明を行った。また、市のホームページやインスタグラム、上越市農産物等販売促進実行委員会のフェイスブックにおいて、情報を発信している。また、農商工連携の取組件数であるが、上越市農産物等販売促進実行委員会での事業として農業者と商工関係者、食に関する飲食店といった業種の方々をマッチングするような機会を設けている。内容としては、農場を見学するツアーや、マッチングの商談会といったものである。この商談会でいくつかマッチングしているものは当市で把握しているが、なかなか市全体で数を把握する手段がない。当市の事業で把握できるものという件数で4件としている。

(丸山委員)：私どもも日本政策金融公庫の農業経営アドバイザーの資格を持つ職員を10人育成しており、取引先に定期的に訪問し、業況を聞いているが、市の支援施策を取引先に紹介できればよいと思う。

(事務局)：是非、お願いしたい。

(今井委員)：見直しの方向性について、非常によく理解できた。課題について、資料2で記載いただいている通り、マーケティング面ではもちろんであるが、それに加えて、本年度、上越市の事業でいろいろ個別相談をした中で、人材の確保が課題として多かった印象がある。人材を育成するために、採用してもすぐに辞めてしまうといった課題を抱えている事業者もいる。個人をいかに育成して活躍してもらうといったマネジメントスキルが、6次産業化を推進して、売上を伸ばしていくためには非常に重要な要素だと思う。他に、地域プランナーの立場としては、2つ意見がある。1つ目は、先ほ

ど専門家の派遣に対し、使いやすい支援制度が良いというという話があったが、まさにその通りであると思う。特に、伴走型支援といった事業者の皆さんに寄り添う支援が必要であると思う。例えば月に1回は、継続的に訪問し、オンラインでもPDC Aサイクルを回す取組を行うことが重要である。2つ目は、先ほど丸山委員の話から農業者と話をして課題を聞く際に、自分たちの支援施策だけではなく、市や国、商工会議所の支援施策の説明をすることでコーディネートが可能となることからコーディネート機能を果たすことが重要であると思う。

(岡田委員)：見直し案について、全体としてよくまとまっている。それぞれの部門ごとに数字を示してあり、見やすいと思う。その中で齊京委員から話が合った販売先の確保が特に大事であると思う。良い製品を作ったとしても出口となる販売ルートを確保しないと継続して生産していくうえでなかなか難しいのではないかと思う。他に広報の方法が重要であると思う。説明があったSNSや、ふるさと納税といったものをもっとPRしていく必要がある。先ほど、丸山委員が説明したビジネスマッチングについて上越商工会議所でも取り組んでいるが、農商工連携の取組体制をしっかりと整えることも重要になってくると思う。

他に、委員からの意見がなかったため、審議を終了。その後、事務局から資料1に基づいて今後のスケジュールを説明し、会議は終了した。

9 問合せ先

農林水産部農村振興課販売促進係

TEL：025-520-5751（直通）

E-mail：nousonshinkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。